東奔西走スクールライフADV

月は東に日は西に

——ration Sanctuary——

オーガスト
オフィシャルハンドブック

Vol.3

AUGUST

東奔西走スクールライフADV

月は東に日は西に

――Operation Sanctuary――

「なおくん、そろそろ起きないと、遅刻しちゃうよ」
今日から新学年、新学期。幼なじみの保奈美は、「もう子供じゃないんだし」と、何度言っても起こしに来る。
丘の上にある『蓮美台学園』で、今年から２年生になる俺たちは、通い慣れた通学路を歩き始めた。

「直樹ーっ、先に行くからねっ」
脇を追い抜いていく従妹の茉理。両親を事故で失って以来、俺ー久住直樹ーは、叔父夫婦の家に世話になっている。
当時、同居することに大反対した従妹の茉理も、この春から蓮美台学園に入学してきた。
そんなありふれた日々。……のはずが。

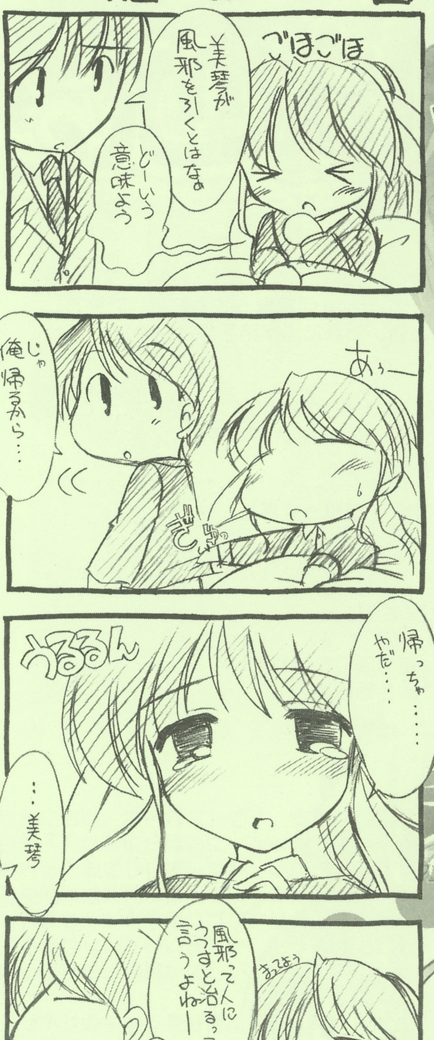
学園の屋上で昼寝を決め込んでいた俺に、空から、女の子が降ってきた。
「……祐介？」

その娘は転校生として、翌日からクラスメートになった。
しかも、俺のことを誰かと勘違いしているようだ。

ゆっくりと時は流れ、変わるものと変わらないものが、俺の周りを流れていく。
繰り返されるありふれた日々が、少しずつ、動き始める。

東奔西走スクールライフ純愛ADV
2003年夏、発売予定です。

カゼを継ぐもの 四



昼寝していた主人公の上に、空から落ちてきたヒロイン。出会い頭に主人公を誰かと間違えたようで、それをきっかけに何かと主人公についてくる。
隠し事は苦手で、とても素直。
不器用で失敗も多いが、何事にも前向きに一生懸命頑張る。
勉強はイマイチだが、家事はソツなくこなす。裁縫が趣味、という意外な一面も。

5月15日生まれ、おうし座のB型。160cm/81C/58/81

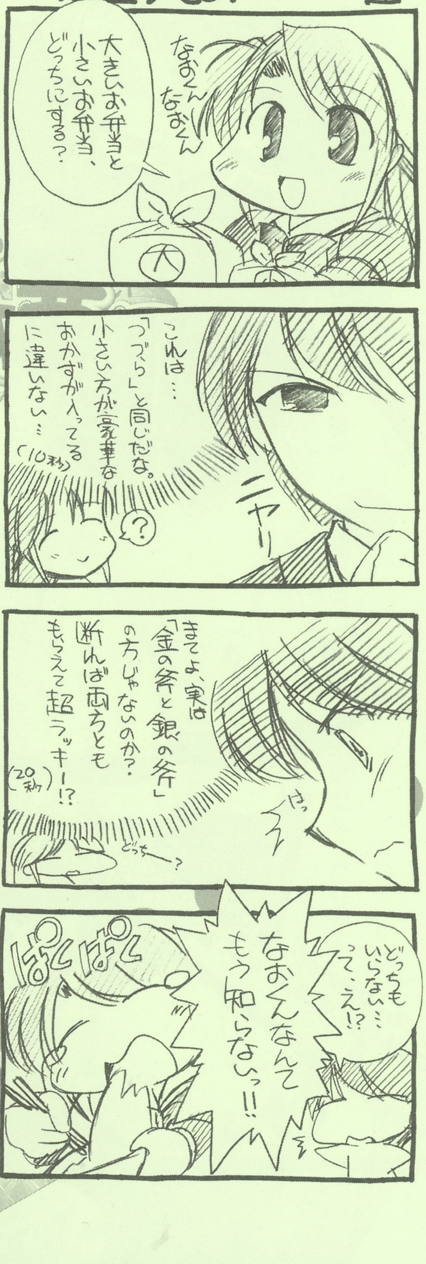
天ケ崎美琴
あまがさき みこと

藤枝保奈美
ふじえだ はなみ

主人公の幼なじみ。毎朝、主人公（と茉理）を起こしに来る程の、世話好き。
主人公と同じく蓮美台学園の２年生で、クラスも同じ。保健委員をやっている。
落ち着いた雰囲気を持つ、家庭的なしっかり者。
少しほんわかとした性格で、一緒にいると相手に安心感を与えるタイプ。
料理部のエース（特にお菓子作りが好き）で、その手料理の味は絶品。

９月１１日生まれ、おとめ座のＯ型。160cm/85C/59/86

二兎追うもの

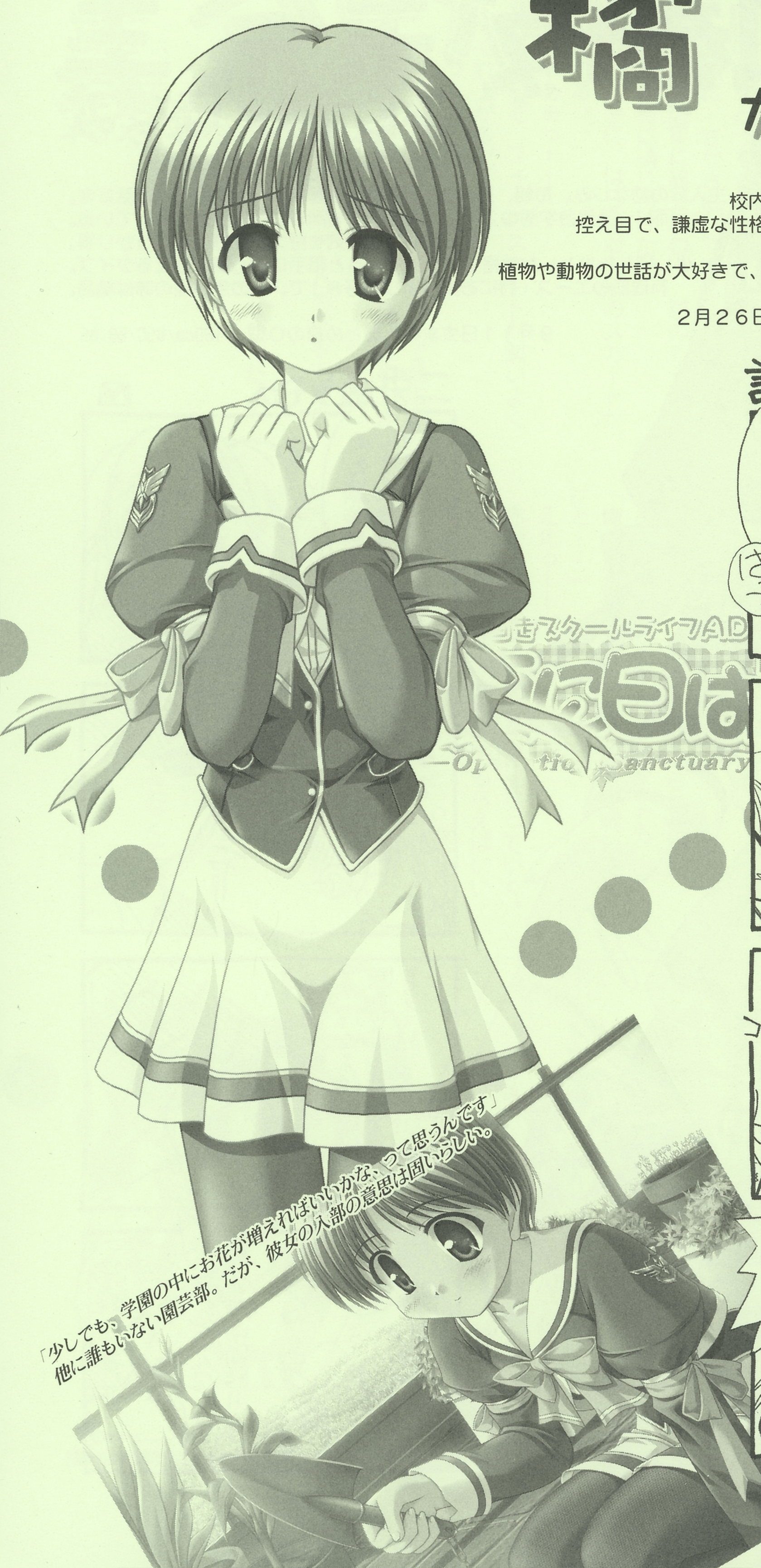


橘ちひろ

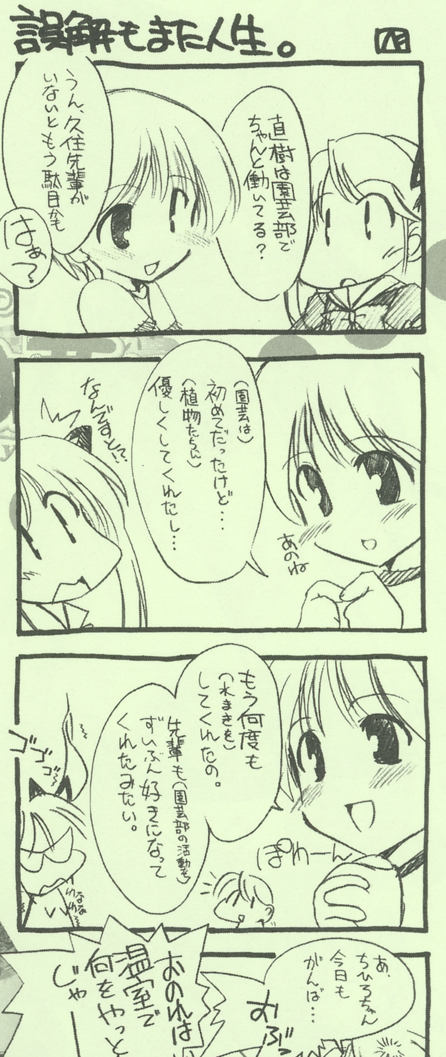
たちばな ちひろ

園芸部所属の１年生。茉理とは親友の間柄。
校内では、温室や花壇にいるのをよく見かける。
控え目で、謙虚な性格。健気で我慢強いが、不意の出来事に弱い。
はきはきとした茉理を羨ましく思っている。
植物や動物の世話が大好きで、特に花に対しての思い入れはかなりのもの。

２月２６日生まれ、うお座のＡ型。149cm/73A/54/74



「少しでも、学園の中にお花が増えればいいかな、って思うんです」
他に誰もいない園芸部。だが、彼女の入部の意思は固いらしい。



主人公が世話になっている叔父の娘。つまり従妹。当然同居中。
今年から蓮美台学園に入学、早速「憧れだった」というカフェテリア（学食）で、
運営委員としてバイトに明け暮れる日々。
元気でハキハキ。頭の回転は速く、思ったことはしっかり口にする。
周りの人には隠しているが、実は大の少女漫画好き。

７月１７日生まれ、かに座のＢ型。155cm/77B/56/79

渋垣茉理
しぶがき まつり

主人公のクラスの担任。天文部の顧問。今年から蓮美台学園の先生になった。
担当科目は古典。初めて受け持つクラスということで、おおいに張り切っている。
身長が異様に低く、黒板の上の方に文字を書けない。
物腰は穏やかで、授業はしっかりと行う常識人。居丈高なところが無く、
学生にとっては応援したくなる先生。プリンが大好き。

1月4日生まれ、やぎ座のAB型。138cm/64AA/51/68

野乃原結
ののはら ゆい

仁科恭子

にしな きょうこ

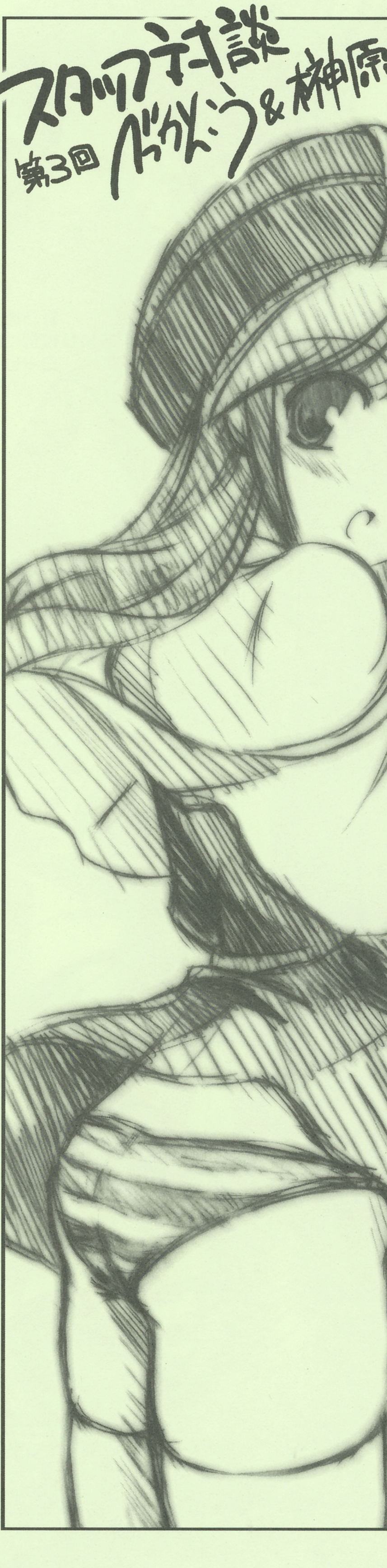
蓮美台学園の保健の先生。兼、ちひろの所属する園芸部の顧問。
保健室の主として、毎日を楽しそうに過ごしている。
野乃原先生もここに来ているようで、一緒に居る光景をよく見かける。
あまり校則に厳しくなく、面倒見もいいため、学生たちの頼れるお姉さん役。
コーヒーが好き。せんべいとチーズをよく食べている。ナイスバディ。

１１月１５日生まれ、さそり座のＡ型。167cm/89D/60/88

これ全部私が冴えたやり方 四

べっかんこう(以下べ):こんばんは。べっかんこうです。
榊原拓(以下榊):こんばんは。榊原です。
べ:オフィシャルハンドブックも3冊目、恒例の対談です。
榊:恒例になりましたね。最初は穴埋めだったのに。
べ:それは言わない約束です(笑)
榊:この対談って、誰が読んでるんでしょうか?
べ:それも言わない約束です(泣)
榊:あ、でも、オフィシャルで『はにはに』って略称を使ったのは、前回の対談が最初でしたね。
べ:そうでした。分かり難い略称ですが、使って頂いてる方、ありがとうございます。
榊:定着するといいですねー。
べ:はい~。
榊:では気を取り直して。
今回のお題は……「しまパン」と書いてますね。これはしましまのパンツのことでしょうか。隙があれば、べっかんこうさんはしまパンを描きますよね。
べ:監督のるねさんのチェックをくぐり抜けて、しまパンを描いてますから。
榊:しまパンの良さって何ですか?
べ:分かる人には分かります。分からない人には一生分かりません。だから説明もしません(笑)
榊:……。
べ:だめ?
榊:いえ、分かりました。そういうものだということが(笑)
……ではまた気を取り直して。
次のお題は「監督とは何をする人か」です。監督というのは、るねさんのことですね。
べ:これは、多分あまりユーザーさんは意識してないんじゃないかと思うんですよ。
榊:うんうん。原画とシナリオ、つまり僕等が話題になることは多いですけどね。
べ:構図の段階から線画、塗りの完成に至るまで、原画・CGには全部るねさんのチェックが入ってるんですよ。出されたリテイクも数知れず(笑)
榊:こっちも同じです。クリフとレティが……あ、これ以上話すとNGって目で、るねさんがこっち見てます~。
べ:じゃあ話題をしまパンに戻しましょう。
榊:あはは、そうしましょうか。……って、しまパンの話題は終わったんですってば。
べ:うーん。じゃあ「オーバーニー」について。
榊:ニーソックスですか。……これも好きですよね?
べ:はい。
榊:良さについて語って下さい。分かる人には~ってのはナシでお願いします。
べ:えーと……微妙なんですが、スカートと靴下の間の肌色というか、ニーソの一番上の部分で締められて変形したふとももというか、それにやはり「しましま」が、
榊:はいっ、ちょうど時間となりました(笑)

2003.4.20 AM4:00 社内にて



プリホリアンニユイシアター

さかさまの雨

内田ヒロユキ

がちゃり……。

　りんご亭の扉が開き、天の日礼拝を終えたフィーが入ってきた。

　なにやら、憔悴しているようだ。

「どうした、いつもより疲れてるみたいだけど？」

「うん……ちょっと困ったことになっちゃって」

「へえ？」

「街のみんなに……神様の力で、日照りを何とかしてくれって言われて、みんなの必死な表情を見てたら……」

「オッケーしちゃったのか？」

　フィーが無言で頷く。

　……。

　シンフォニアでは、この一ヶ月、雨らしい雨が降っていない。

　各地から被害の噂が流れ込んできていたが、街に住んでいる人間は、農耕で生計を立てているわけではないから、まだ救われている方だった。

　それでも、なんとなく落ち着かない雰囲気が立ち込めているのは、日照りが、人の心からも潤いを奪ってしまったからだろうか。

「フィーは、毎日お祈りしてるんだろ？」

「うん、雨を降らせて下さいって、欠かさずお祈りしてるんだけど……」

「……神様にも事情があるのかな」

「そうなのかな……どうしたらいいんだろう？」

「神様がダメとなると……あとは……」

「……うん」

　しばらく二人で頭をひねる。

「いるじゃないか、適材が……」

「誰か知っている人がいるの？」

「いるだろ、湖の魔法使い様がっ」

「そりゃ、私になんとかできるなら、なんとかしてるよ～」

　湖の魔法使い様は、りんご亭に着くなり不満げにそう言った。

「無理だったのか」

「うん、いろいろ試したんだけど」

「そいつはご苦労様」

「見てよ……この日照りのせいで、ピアが伸びちゃって伸びちゃって」

「……ふ～みゃぁああ～……」

　ピアの鳴き声は、いつにもまして弛緩している。

「だいぶ新生物だな、こりゃ」

「うん、だから私も何とかしたいんだけど……」

「お兄ちゃん……旅先で、雨乞いみたいなものは見なかった？」

　フィーが訪ねてくる。

「雨乞いなあ……何かあったかな……」

　干ばつが多い地域も旅したことはあるから、雨乞い行事の一つや二つは見ているはずなんだけど……。

「……あ」

　俺は、頭の端っこに微かに浮かんだ映像を、必死にたぐり寄せる。

「南の村で、同じように日照りに苦しんでた村があったな……フルフル坊主とかいう人形を……」

「フルフル？　本で読んだことがあるかも」

「本当か！？」

「うん、ちょっと家で調べてくるよ」

　好奇心を刺激されたらしいラピスは、瞳を輝かせながら店を出て行った。

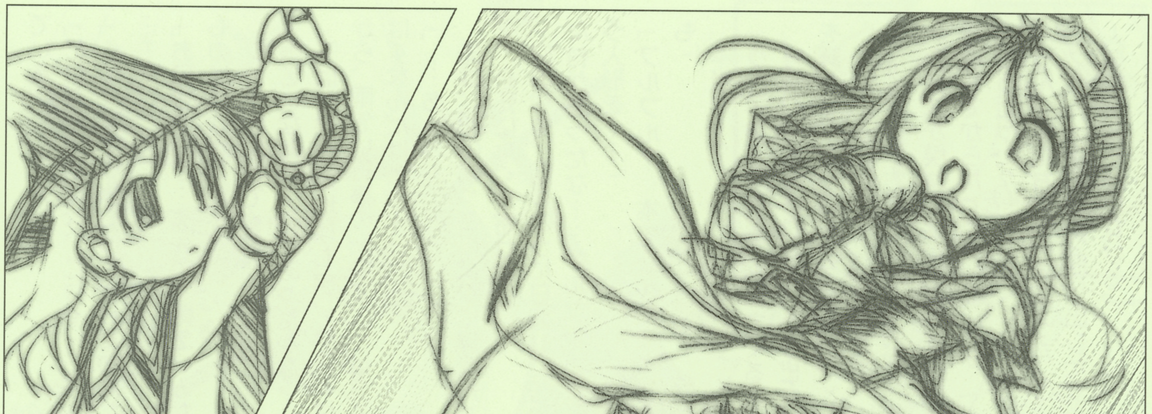
　ラピスが戻ってきたのは、3時間ほどが経過してからだった。

「どうだった？」

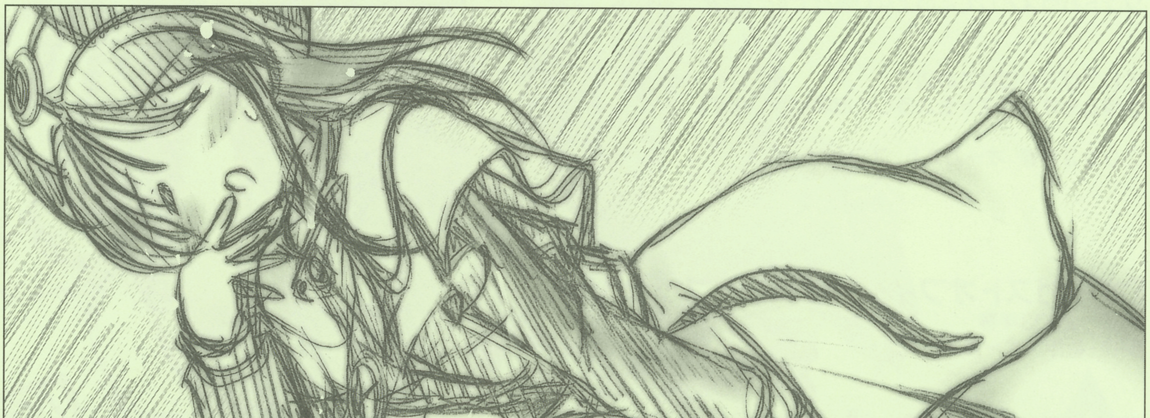
「うん、私たちにもできそうだよ」

　マントの裏側から取り出した女の子の人形を、俺たちに見せる。

「なんだか、私に似せてあるみたいだけど……」
「御名答。今回はシルフィが適任だと思うんだ」
「どういうこと?」
「まあまあ。悪いけど、髪の毛を1本もらうね」
「あ、うん……」
ラピスは、フィーの髪の毛を1本取ると、人形に結びつける。
「よしっ、準備完了」
「これをどうするの?」
「窓際に、さかさにして吊るすの」
と、人形の足に紐を結わえ、紐のもう片方の端を窓枠に縛り付けた。
その拍子に、はらりと人形のスカートがめくれる。
「きゃあぁっ!!」
目の前で、フィーのスカートが勢いよくめくれ上がる。
「ぶっ!!」
白く滑らかな太ももと、レースで縁取りされた、薄水色の下着が目に飛び込んできた。
フィーは慌ててスカートを両手で押さえ、俺を睨む。
「いや、突然だったから見えなかったよ」
精一杯軽く受け流す。
「……本当に?」
「ほ、ホントだって」
……。
俺の嘘を見抜いたのか、一つため息をつくと、
「もう、お兄ちゃんの……えっち」
と、もらした。
そう言ってうつむいたフィーに表情は、恥ずかしがっているにしては、少し赤くなりすぎているように見える。
「お前、なんか顔色が悪くないか?」
「う、うん。さっきから、頭に血が上ってるみたいに、フラフラするの」
俺たちのやり取りを傍観していたラピスが、思いついたように口を開く。
「そうそう、言い忘れてたけど、シルフィと人形は魔法で繋がってるからね」
「あ、そうなんだ。だからスカートも……」
「俺が見た儀式では、人形に針を刺してたけど……」
「ええっ!!」
赤かったフィーの顔が、青くなっていく。
「ん〜、最終的に涙を流してもらえばいいはずだから……」
「どうして涙なんだ?」
「昔、仕事をサボった雨の神様が、もっと偉い神様に、さかさまにつるされて怒られたんだって。その時に流した涙が雨になったっていうお話から来てるみたい」
「へえ、それで涙か」
「お兄ちゃん、感心してちゃダメだよ。針なんか刺されたら……」
「だいじょーぶ、針なんか刺さなくても、涙は出るでしょ?」



と、イタズラっぽく笑うと、足元にいたピアを抱き上げ、その尻尾で人形をくすぐる。
「……ん……うん?」
すぐさま、フィーがもぞもぞと反応し始める。
「こしょこしょこしょ」
「ん……あ……あっ……んっ……」
「こしょこしょこしょこしょこしょ」
「きゃっ……だめ……くすぐった……にゃっ……」
何もないところで、嬌声を発しながら身もだえする妹……危険な香りがする光景だ。
「こしょこしょこしょこしょこしょこしょ」
「ひゃうっ、も、もうだめ……でちゃう、涙……出ちゃう」
「こしょこしょこしょこしょこしょこしょこしょこしょ~っ」
ひときわ激しく、ラピスが人形をくすぐった。
「きゃあああああっ……だめええっ!!」
ピカッ!!
稲妻が晴天を走ったかと思うと、みるみるうちに、空が雨雲に覆われていく。
……。
一呼吸遅れて、雨の轟音が街を包んだ。
……。
街のそこかしこから、歓喜に満ちた人々の声が聞こえてくる。
「やったよクリフ。大成功っ」
「フィー、見ろよ。ちゃんと雨が降ったぞ」
「はぁ、はぁ……ホントだ……よかった」
「よく頑張ったな」
「ありがとう、お兄ちゃん。これで街のみんなが喜ぶよ……」
荒い息で、フィーが嬉しそうに答えた。
「ラピス、ありがとう」
「こちらこそ、貴重な体験ができたよ」
窓にぶら下がった人形は、ふらふら揺れながら、満足そうに雨の街を見ている。
「お疲れ様」
俺は、優しく人形に縛られた紐を解いてやる。
「あれ、どうするの?」
それに気づいたラピスが、口を挟んできた。
「こ、これは危険なアイテムだから、お兄さんが安全なところに保管して……」
俺は、イタズラ心満点の笑みをラピスに返す。
「そっか……って、ダメに決まってるでしょっ!!」
ピカッ!!
ラピスの放った光は、さっきの雷よりもまぶしく見えた。
完



こんにちは、オーガストです。今回は、前作『プリホリ』と新作『月は東に日は西に～Operation Sanctuary～』の二本立ての内容でお送りしましたが、いかがでしたでしょうか。時期的には新作（はにはに）の紹介に徹するべきなのかもしれませんが、やはりプリホリのキャラたちもまだまだ描き足りないといいますか、もっと育ててあげたいといいますか。未練がましいですね。（笑）

プリホリのキャラを好きになってくれた方もそうでない方も、次回作のキャラが少しでも気に入って頂ければ、ソフトハウスとしてこの上ない喜びです。

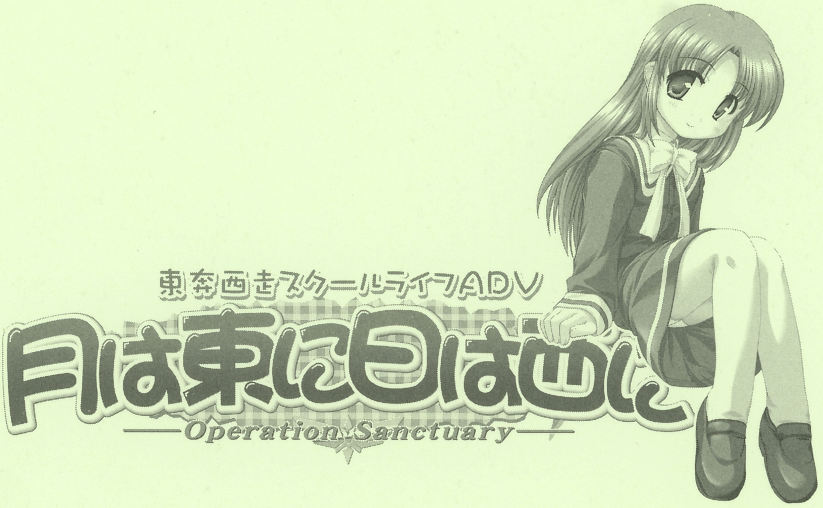
それでは、今回はこの辺で。
今後ともオーガストをよろしくお願い致します。

２００３年春 オーガスト スタッフ一同

『オーガストオフィシャルハンドブック Vol.3』
発行 2003年春
制作・著作 オーガスト

AUGUST

最新情報満載♪
オーガストオフィシャルホームページにぜひお越し下さい。
URL ▸ http://august-soft.com/



オーガストオフィシャルハンドブック Vol.3

AUGUST

(C)2003 AUGUST